

研究発表もうしこみフォーム

氏名：趙 芙蓉 (チョウ フヨウ)

氏名のローマ字表記：Zhao Furong

所属：国立民族学博物館

専門分野：文化人類学・宗教人類学

発表のタイトル：内モンゴルのモンゴル仏教の再生の現状と転生ラマの存在

発表要旨（600字～800字程度）：

1980年以降、改革開放後の宗教政策の緩和により、中国内モンゴル自治区にて寺院の再建やモンゴル仏教の再生が着々と進められてきた。本発表では、多重な文脈を背景に再生する内モンゴルのモンゴル仏教の現状を報告したうえで、再生の過程で果たす個々の活仏の役割について明らかにする。

16世紀より、チベット仏教のゲルク派がモンゴル地域への布教が始まり、モンゴルの在来の信仰と習合し、新たな展開を見せた。中華人民共和国の建国をおきに、宗教が「迷信」として禁じられ、寺院が破壊され、僧侶が還俗された。各寺院のトップに立つ活仏たちも被害を逃れなかった。

1980年代以降、改革開放後の宗教政策の緩和により、中国内モンゴル自治区においても文化大革命を生き抜いた転生ラマたちが先頭に立ち、仏教学校を設立し、僧侶の教育を行い、新たな体制の下での新たな形の仏教の再生を模索してきた。実際には、寺院の再建にあたっては、限られた予算と民間からの寄付によって再建が進められてきた。寺院再建当初はほとんどの大寺院は観光開発などを念頭にさまざまな仏教的な儀礼を復活させ、寺院の経済を支えてきた。

しかし、近年人々の信仰心の高揚により、カリスマ性のある転生ラマ（活仏）及び高僧のいる寺院は再び人々の信仰の場、あるいは都市で暮らすモンゴル人コミュニティの伝統文化を実践する場にもなりつつある。例えば、近年お寺の行事のほかにも、非常に盛んに行われるようになったオボの建設、オボ祭り、火祭り、お正月の行事などといった、モンゴル民族固有の民間信仰、伝統文化を実践する場になり、人々を引き付けている。

一方、カリスマ性のある転生ラマ及び高僧が存在しないが、地域の人々を引き付けるため、外から定期的に活仏や高僧を呼んで仏教行事を行って再生に成功している寺院や、寺院再生の過程にて「観光」と「信仰」のバランスがうまく取れなく、寺院本来の姿が失われ、信者離れで途方に暮れている寺院も存在する。

最後に、本発表は、多重な文脈を背景に再生する内モンゴルのモンゴル仏教の現状を報告し、その再生の過程における活仏および高僧のカリスマ性の果たす役割について一考察を行うことで重要である。